

4/10(金)

①バレエ解剖学

みなさん元気にお過ごしですか？解剖学。ちょっと難しくなって来ちゃったでしょうか？

今日は解剖学をひとやすみしまして。有梨先生とバレエ解剖学の出会いについてお話します。

私はバレエを始めてから二十歳くらいまでバレエ解剖学という言葉を目にしたことはありませんでした。どうしてつま先を伸ばすのか？どうして太ももを使っちゃダメと先生は言うのか？肩甲骨を寄せてと言う先生と寄せてはだめという先生がいる...バレエに対するたくさんの不思議はありましたが、とにかくお稽古お稽古。また生徒数が多すぎて気軽に先生に質問できる環境ではありませんでした。「先生がそうおっしゃるから」と保留にしていました。高校生の頃からお稽古もハードになり、学校がお休みの日は一日に3クラス受講した事もありました。これで当然上手になるだろうと思っていましたがなんか変...お稽古をすればするほど身体がどんどん重く固まる感じがして、自分が思っている動きが出来ない、でもこれ以上一日のお稽古は出来ないし...。何がおかしいのだろう...そんな時イギリスでバレエ解剖学を学ばれたという先生に出会いました。

座学ではなく実践型でしたのでやはりあまり理屈は分かりませんでした。みるみる筋肉の形が変わっていき、身体の余計な力もなくなり「バレエってこうやって踊るんだ!!」と目からうろこが落ちました。

いつしか教える仕事の割合が増え、自分の勉強もおろそかになっていきバレエ解剖学もいったん中断となりました。暫くが経ち、皆様ご存知のアユミちゃんとの出逢いがありました。どうしてもローザンヌのコンクールに出場したいとの彼女の希望がありました。そのころ盛んにおこなわれていたローザンヌコンクールの芸術監督を務めるヤン・ヌイツ先生のセミナーがありました。ローザンヌコンクールに出場するなら受講をした方がよいとのアドバイスを頂き、ついでだから私も指導者コースを受講しようという事で、そこでとうとうヤン・ヌイツ先生との出会いがありました。「解剖学的アプローチ」とする指導法はメソッドの垣根を超えて、あくまでも解剖学に添ったバレエ指導法に徹底していました。これまで当たり前に行って来ていた事にちゃんと疑問を持ち、それがひとつひとつ丁寧に紐解くように解かれていく時間は私にとってかけがえのないものになりました。それから約30年。ヤン先生が引退された今はしっかり自力で復習する日々ですが、書き溜めたノートはバイブルです。

こんな世の中になってしまい生徒さんとの当たり前に会う事の出来ない悲しい毎日ですが、次回のお稽古までにノートを読み返し確認しながらレベルアップしていきたいと思えます。